

令和4年度 第2回千葉県博物館協議会会議 議事録

日時：令和5年2月9日（木） 午前10時～12時

会場：オンライン（対面の場合は千葉県立中央博物館 会議室）

出席者：（※はオンライン出席）

委員 高橋委員※（議長）、濱田委員※、井口委員、卯木委員※、湯浅委員※、
鴻野委員※、細矢委員※、細田委員※、門脇委員※

博物館 美術館：中松副館長（山本館長代理）、鈴木普及課長

中央博物館：植野館長、高梨副館長、小田島生態・環境研究部長、
御巫資料研究科長

（分館海の博物館）：斎木分館長

現代産業科学館：田中館長、竹内学芸課長、植野普及課長

関宿城博物館：米谷館長、尾崎学芸課長

房総のむら：望月館長、大森副館長

文化振興課 戸崎副参事、学芸振興室：立和名室長、小出技師

事務局 島立企画調整課長、関上席研究員、吹春上席研究員、玉井研究員、
樽研究員（記録）

※ 配付資料確認【事務局】

- 1) 座席表、議事次第
- 2) 協議会委員名簿、出席者名簿
- 3) 議事資料 千葉県立博物館・美術館のホームページの現状と課題

1 開会【事務局】：委員10名のうち9名の出席（うちオンライン8名）により会議成立。
傍聴者なし。

2 あいさつ【現代産業科学館：田中館長】

3 議事（別紙参照）

4 行政説明【文化振興課：戸崎副参事】：なし

5 諸連絡【事務局】

6 閉会【事務局】

(別紙)

【議事】

(1)：県立博物館・美術館のホームページの現状と課題

【高橋議長】

本日も活発なご議論をよろしくお願いいたします。議事1、県立博物館美術館ホームページの現状と課題というテーマで議論していきたいと思います。事務局からどうぞよろしくお願いいたします。

【事務局】

今年度は博物館情報システムの更新について委員の皆様にご審議をいただいております。第2回目の本日は、県立博物館・美術館のホームページの現状と課題というテーマについて説明させていただきます。来年度更新予定の博物館情報システムですが、大きくホームページと資料データベースに大別されております。本日はホームページに焦点を当てて、各館のホームページの概要、現在の運用方法、課題と改善点についてご説明いたします。トップページの編集の不便さ、展示やイベントの情報がわかりにくい、という2点につきましては各館共通の課題となっております。それではこれから各館から説明をさせていただきます。各館の説明時間は、質問を含めて15分程度となっております。その後20分ほどの総合討論を行いたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

【美術館】

配布資料(1~3頁)とパワーポイントを用いて説明

【高橋議長】

今のご説明に関しまして、ご質問、コメント等をお願いします。今日はホームページということで、様々な視点の議論が出てくるかと思えます。管理側、ユーザー側としての視点や広報としての視点もあると思えます。忌憚のないご意見をいただければと思います。

【細矢委員】

課題の中にある行事カレンダー、国立科学博物館でも同じですが、位置がわかりにくいという問題があります。これを使うユーザーはどのようなつもりで利用する人が多いと分析されているのでしょうか。どのようなきっかけで行事カレンダーを利用するのか、その動機やユーザーの背景を、分析されていらっしゃるかということをお伺いしたいです。

【美術館】

アンケート等で、何の情報でご来館いただいたかという情報の収集を行なっています。最近、ホームページを見たという方が多く、展覧会を目的にいらっしゃる方がほとんどです。当館で企画した展覧会以外に、美術団体の展覧会を目的にいらっしゃる方がおられます。そのような方々が今何を行なっているのかをチェックすることが多いと考えています。

【細矢委員】

そうすると、展覧会を目的に閲覧するのではなくて、今日行われているイベントを目的に閲覧する人が多いと考えていらっしゃるわけですね。

【美術館】

団体展を目的にご来館される方は、その団体を目的にご来館されます。ご来館の目的が何らかの展覧会関係を見るためですので、今日何を行なっているのかということをも目的に閲覧されているわけではないと考えています。

【細矢委員】

そうすると、行事カレンダーの意味というのはどのように考えていらっしゃいますか。

【美術館】

行事カレンダーは、そのとき何をやっているのかという紹介です。ただ、展覧会以外にいろんなイベントをやっておりますので、展覧会を見に行くついでに他のイベントを探すために使われていると考えております。

【細矢委員】

ありがとうございます。

【細田委員】

さすが美術館ということもあり、色みも抑え気味なシンプルなデザインで洗練されているイメージだと思いました。

メディアの観点からですと、2023年は千葉県誕生150年ということでどんなことが発信できるかなということ常によっぱりアンテナを張っているところです。その中で例えば美術という観点ではどんなことがあるかと調べる場合に、県立美術館さんのホームページの中では千葉県150年特別ページが作られるのか、あるいはもう既にあるのでしょうか。

【美術館】

150周年に向けまして、様々な事業を今計画しております。その事業実施等についてホームページにも内容を反映させていこうということで準備しているところでございます。

【細田委員】

ありがとうございました。楽しみにしております。参考にしたいと思います。

【高橋議長】

他に何かございますか。いかがでしょうか？

次回がデータベースについてということで、そこと少し関わるかもしれないのですが収蔵資料を検索ができるページを拝見いたしました。個々はわかるのですが、全体像がちょっとわかりにくいと感じました。大体どのような作品をお持ちなのか、例えばどの作家の作品をお持ちなのか等、そのようなことがわかるようなページがあるといいと思います。少し細かいことですが、何か全体像を見せながら個々もわかるような工夫も必要だと感じました。

【美術館】

ご指摘ありがとうございます。やはり収蔵品の検索っていうのは一点一点の検索になってしまうので、文言の入れ方によってはなかなか一致するものが出てこないというところもあります。当館の名品と言われるものなど、コレクションのページを充実させなければいけないと思っております。

【高橋議長】

ありがとうございます。そろそろお時間ですので、次に参ります。中央博物館お願いします。

【中央博物館】

配布資料（4～6頁）とパワーポイントを用いて説明

【高橋議長】

ありがとうございました。ただいまのご説明に関しまして、何かご質問等ありましたらいただきたいと思います。

最後に出てきました GIGA スクール構想ですが、博物館はどのような貢献ができるのか、もう少し具体的に教えていただけませんか？

【中央博物館】

「おうちで中央博」ページや学校団体向けページに公開している教材を利用してもらって学校の児童、生徒の皆さんに博物館を知ってもらって、もしよろしければご来館いただきたいと思っております。

【高橋議長】

わかりました。何か他にございますか。

【細矢委員】

Twitter との連携についてお話されていましたが、特に若い人はホームページより Twitter や Facebook などの SNS の方に著しく比重が偏っているように感じております。このことについて、ホームページと SNS のすみ分けについてどのようにお考えでしょうか。

【中央博物館】

基本的にホームページを更新したときは必ず Twitter でリンクを配信しております。特別展のときは展示準備作業をホームページで公開したと申し上げましたが、Twitter ではその内容を要約したものとそのリンクを貼っておりました。長い文章はホームページ、比較的短い文章、あまり多くない情報量は Twitter と考えております。

【細矢委員】

ありがとうございます。文章が長い短いということもさることながら、どこの階層にあるかということも大事だと思います。先ほどの説明で「研究紹介」のページが5回ほどボタンを押さないとページに辿り着かない場所にあるので見にくいとありましたが、階層の限界っていうのは大体どのぐらいまでなのか、ホームページ使ったときに、ユーザーは何階層まで探すというようにお考えですか。

【中央博物館】

運用する上では相当難しいのかもしれないですが、多くても3階層ぐらいかなと考えております。

【細矢委員】

ありがとうございます。最後に海の生きものの写真の同定についてです。ものすごく面白い話で、市民科学の先駆的な試みとしても感心して聞いていました。例えば写真を研究に利用する、公開をするということになると、ライセンスの処理っていうのが結構大事になってくると思います。この点はどのような工夫をされていらっしゃいますか？

【中央博物館】

写真をダイビングサービスの方に預ける時点で、簡単な承諾書にお名前を書いていただくということで、研究を含めた博物館活動に使用できるようにしております。

【細矢委員】

クリエイティブコモンズをつけたりすることもあるんでしょうか？

【中央博物館】

現在はしていませんが、今後の課題かと思います。

【細矢委員】

千葉県立中央博物館とダイバーさんとの関係ということで整理されてらっしゃるということですね。

【中央博物館】

千葉県とダイバーさんとの関係ということで整理しております。

【高橋議長】

Twitterのアカウントは博物館としてのアカウントで運用しておられるのか、それとも個人的なアカウントで運用しておられるのでしょうか。

【中央博物館】

これは博物館のアカウントで行っております。

【高橋議長】

1人の負担が多いのではないかと思います、その辺はいかがでしょうか？

【中央博物館】

フォーマットを作成して全職員に配布し、それぞれ配信してほしい内容をいただいております。1人にかかる負担は多くないと考えております。

【高橋議長】

ありがとうございます。フォーマット化が進んでいるということですね。

私の感想ですが、確か植物の名前の調べ方を紹介するページがあったかと思います。これは結構使えるなと思って見ておりましたが、このページが埋もれてしまっている感じがします。それをもっと表に出してくると、もう少し役に立ち、身近な感じが出てくると思いました。

続きまして、現代産業科学館お願いいたします。

【現代産業科学館】

配布資料（7～9 頁）とパワーポイントを用いて説明

【高橋議長】

ご説明ありがとうございました。ご質問等ございますか。

【細矢委員】

大変工夫されて、ワークシートを作ってもらったということがよくわかりました。このワークシートの実際の利用というのはどのくらいの頻度で来館されている方に使われているものでしょうか？

【現代産業科学館】

当館は、天気に関係なくいらっしゃる団体様、それから雨の日だけいらっしゃる団体様というのがありまして、天気に関係なくいらっしゃる団体様は 100%お使いになっていらっしゃいます。事前に下見をしていただいたときに、ワークシートがなぜ必要かということをご説明してわかっていただいて、利用していただいていると考えております。ただ、雨の日のみご来館される団体様は当日にならないと、来館するかどうかはわかりません。この場合は半分ぐらいの団体様がお持ちしていただいていると認識しております。

【細矢委員】

そうすると、事前の打ち合わせにかなり時間と手間がかかるのではないかと思います。スタッフとして何人ぐらいの方が事前の打ち合わせに対応していらっしゃるのでしょうか。

【現代産業科学館】

6 名で対応しております。

【高橋議長】

お話をお伺いして、かなり教育を意識された形でホームページを運用されていると感じました。それと同時に、面白い取り組みとして「伝えたい千葉の産業技術 100 選」ですね。これは非常に面白い取り組みだと思っているのですが、一番トップのところにバナーは貼られているものの、今ひとつインパクトがない、ちょっとネガティブな言い方をしていますが、うまく活用できているのかとちょっと心配なところがあります。社会と理科を結ぶ試みだと思うので、それがもう少し生きるようなページになっていくといいと思っております。

【現代産業科学館】

ご指摘の通りでございます。

先ほどからございますようにトップページがなかなか使いづらいということで、すぐに対応はできないのですが、例えば告知バナー等を活用して多くの方に閲覧していただけるような試みはすぐできます。本日伺ったご意見を参考に、早速対応させていただきたいと思っております。

【高橋議長】

ありがとうございます。できれば目的別、もしくは対象別に並び替えて、少し整理されるとうち少し見やすく、わかりやすく楽しめるのではないかなと思っております。それでは時間も押しまいましたので、関宿城博物館お願いいたします。

【関宿城博物館】

配布資料（10頁）を用いて説明

【高橋議長】

他の博物館と違って少し観光の要素も強いというお話でしたがその辺も含めまして何かありましたら、コメントをお願いしたいと思いますがいかがでしょうか。

先ほどから、Twitterがうまく使えるという話が出ていましたが、ご説明があった塩作りの連載日記とかもそうで、InstagramやTwitterを使って情報発信するというような、そのようなことも考えられるかと思っております。やはりマンパワー的なところはかなりきついのが現状でしょうか？

【関宿城博物館】

その通りでございます。職員の数も非常にギリギリでやっているところでありまして、新しい情報というのはピックアップコンテンツの中で、更新していく形としております。

【高橋議長】

ありがとうございます。これは個人的なコメントですが、古文書を読むというのがなかなか面白くて、このようなコンテンツをもう少し充実していただければ、ご高齢の方がもう少し増えるのではないかと思います。

【井口委員】

トップページに、とても富士山や桜などの綺麗な写真が掲載されていますが、この写真は職員の方が撮影されているのでしょうか。

【関宿城博物館】

職員が撮影した写真ももちろん多いですが、その他には、写真コンクールや関宿城の風景を描く写生コンクールを開催して入賞作品の展示、場合によっては応募作品の全てを展示することもあります。このような形で多くの写真を撮ってもらい、写真展に応募していただいて、入賞作品は博物館のPRに使わせていただきますということも行いながらさまざまな視点から見た関宿城を紹介しております。

【井口委員】

ありがとうございます。より多くのステークホルダーと良好な関係を作り、それをホームページに反映させていくということでまた良い反応が生まれるかもしれないなと思っております。

【高橋議長】

ありがとうございます。続きまして、房総のむらからお願いいたします。

【房総のむら】

配布資料（11～13頁）とパワーポイントを用いて説明

【高橋議長】

ありがとうございました。房総のむらはかなり観光の要素を持ち合わせた博物館なので、いろいろと運営が難しいところあると思いますが、予約のシステムについて、ちょっとお伺いさせてください。このシステムは専用で開発されているようなシステムなのでしょうか？

【房総のむら】

予約の大まかなシステムを作られているところと契約をして、房総のむらにフィットするよう変更してもらって使っております。

【高橋議長】

ありがとうございます。そうすると、これは今後もそれを使い続けていくのが房総のむらとしてはやりやすいということになりますね。それでこのシステムに個人受付のシステムをどのように入れていくかというときに問題が発生するということなののでしょうか？

【房総のむら】

おっしゃる通りです。全て自前で作るのは非常にお金と時間も必要ですし、既成のもの、業者さんが作っているものを使うのが今の私どもの規模であれば、ふさわしいと思っております。しかし、先ほど申し上げたように、受付の数が、学校であれば数百のレベルですが、個人になるとおそらく万のレベルになると想定されます。そうするとまた別の問題点があるかもしれないと思っておりますので、他館の様子なども勉強させていただきたいです。ネットで受付ができれば、私どももちろんですがお客様にとってもメリットが多いと思っておりますので、これからの課題であると考えております。

【高橋議長】

ありがとうございます。おそらくネットをうまく使っていないと大変だろうと思います。

風土記の丘は別立てのページになるのでしょうか、それとも房総のむらのページから繋げるのでしょうか？

【房総のむら】

風土記の丘のページは房総のむらに含まれております。現在改修工事のため閉じているのでご見学いただけませんという案内を出しておりますが、リニューアルいたしましたのでこのページを更新しなくてはならないと思っております。

【高橋議長】

ありがとうございます。それでは、各館からの説明は以上といたしまして、全体的なところで議論をしたいと思えます。全体を見て、また先ほど少し聞き忘れたなということも含めましてお願いしたいと思えます。

【細矢委員】

千葉県立中央博物館のところで伺っておくべきだったのですが、県立博物館全体をまとめているページを、中央博物館さんの方で管理されているというお話でした。そのホームページと各館ホームページとのリンクはどのようになっているのでしょうか。

【中央博物館】

各館ホームページから全体のページに飛ぶリンクは、基本的に各館ホームページのフッターに貼っております。また、同じ場所に県立他館のリンクを貼っております。県立博物館総合サイトには各館のリンクを掲載しております。

【細矢委員】

各館ホームページから総合ホームページに行くにはフッターから、総合ホームページから各館ホームページへは、リンクを貼っているのですね。

この博物館協議会というのができたというのは、知事の意図としては各館が連携して活動ができるようにということを考えてらっしゃるのではないかと思います。総合ホームページから個々の博物館に飛ぶことはできるのですが、例えば中央博物館の自然部門と、例えば現代産業科学館のような現在産業部門、あるいは歴史部門と房総のむらのような形で相互にリンクするような、そのような試みというのはないのでしょうか？

【中央博物館】

総合ホームページ、ここを出発点として、先ほどもご意見の中で出ました県政 150 周年など、いろいろな話題のものを本ページで総合的に情報発信できればいいと、次期のシステムで考えられればと思っております。

【高橋議長】

次期のシステムの各環境、例えばトップページは共通のフォーマットで作成することになるのでしょうか？多分 CMS を使いながらページを作っていくようになると思うのですが。

【中央博物館】

ホームページをご覧いただくとお気づきかと思うのですが、各館のコンテンツがかなり多種多様ですので、前回の更新のときも統一フォーマットにわざとしておりません。今後使いやすさやアクセスのしやすさを考えて、統一フォーマットは、業者と打ち合わせの中で示していきますが、おそらく各館独自の変更が入ってくると予想されます。

【高橋議長】

ありがとうございます。ある程度共通なトップページの作りは必要なのではという気がします。これについては、使いやすさ等もあると思いますが、横に繋がっていることがわかることも必要なのではないかと思います。

【湯浅委員】

各館、技術的なところも含めて、非常に努力をされていることがよくわかりました。ホームページの主要な機能として、一つ提言、お願いなのですが、様々なところからアプローチして、千葉の歴史・民俗あるいは自然の概要を簡便に把握できるという機能も大事だと思います。例えば今回の資料でデジタルミュージアムの一覧が出ておりますが、一つお考えいただきたいのは、千葉の歴史や民俗あるいは自然のような簡便なコンテンツをわかりやすい形でそのホームページに掲げていただきたいと思います。千葉は千葉県史などの自

治体史の蓄積も豊富なところですので、そのあたりをお考えいただきたい、基本理念のことで一つお願いしたいというのが一点です。

それからもう一つは、次回のデータベースも関わると思うのですが、各博物館のページで資料検索のサイトがもちろんあったわけですが、NDLやOPAC等のリポジトリを充実させ、可能な範囲で研究紀要などをダウンロードできるようにしているところが多いと思います。今このようなことをどのくらい行なっているのかということをお教えいただければと思います。よろしくお願いします。

【中央博物館】

中央博物館について、過去の研究報告はできる限り全てPDFでダウンロードできるように公開しております。

【湯浅委員】

わかりました。ありがとうございました。

【鴻野委員】

どの博物館・美術館のサイトもそれぞれの魅力があり、またTwitterなどのSNSでも頻繁に発信されていて、博物館の活動に関心を持つきっかけになっていると思います。また、様々な博物館で開催されている企画展のサイトにも多数の写真が掲載されており、魅力的なものになっています。これに加えて、ホームページに展示会の出品品のリストも掲載されていると、この作品が見られるなら来館しようと思われる方もいらっしゃるかもしれないと思いました。例えば千葉県立美術館で今開催されている第4期コレクション展がとても興味深い内容だったのですが、会場で配布している作品リストをPDFにしてサイトに掲載することによって、ひょっとしたら遠方からも美術愛好者の方が来館される可能性があるかもしれないと感じました。また展示会によってはその展示会が始まった時点で、会場写真をTwitterだけではなくサイトに追加することも効果的かもしれないと思います。企画展の会場写真をサイトにも掲載している美術館は全国的に必ずしも多くないのですが、一つの例を挙げますと、六本木の森美術館は立体作品の展示が多いこともあり、展示展示会サイトで展示風景の写真をしばしば掲載していて、展示会の魅力が伝わりやすいように思います。展示会巡りをしている人はTwitterではなく展示会のサイトを直接調べることも多いので、そうした方々には伝わりやすいのではないかと思います。また、千葉県立美術館を例に挙げますと、現在開催されている山下麻衣+小林直人展は二つの展示室の空間が独創的でとても素晴らしい展示になっており感銘を受けました。このような会場写真がサイトにも掲載されていると一層多くの方の目に触れやすいのかなと思いました。

【美術館】

貴重なご意見ありがとうございます。展覧会の出品リストについて、今後ホームページ上でも載せられるように検討していきたいと思います。会場写真につきましては、Twitterでは展覧会の準備段階、会場作りの段階から配信していますが、これをホームページ上でも、特に会場が出来上がった状態になりましたら、ホームページにも載せていくことを今後検討していきたいと思います。

【鴻野委員】

ありがとうございます。

【高橋議長】

私から最後にコメントさせていただきます。博物館によってはスマートフォンで見た方が見やすいものもありました。今後はスマホでアクセスされることも意識しながらページを作っていく必要があると思います。

続きまして、議事の2、その他に移ります。

(2)：その他

【高橋議長】

事務局からは何かありますか。

【事務局】

各委員の方々には、最終版の議事録をお送りいたしております。こちらにつきまして、ご承認いただければと思っております。

特にご異論がないのでこれで議事録とさせていただき、ホームページで公開させていただきます。

【高橋議長】

各委員からは何かありますか。

【委員】

ありません。

【高橋議長】

なければ、これで予定された議事を終了します。それでは、事務局に進行をお返しします。ありがとうございました。